

図 3-1 調査対象者の性別内訳

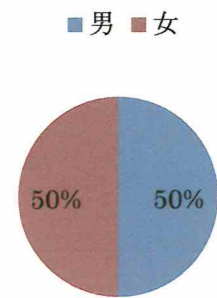


図 3-2 調査対象者の年齢内訳

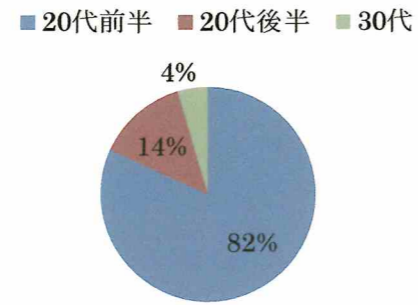


図 3-3 在日中国人の人口ピラミッド (2014 年末)

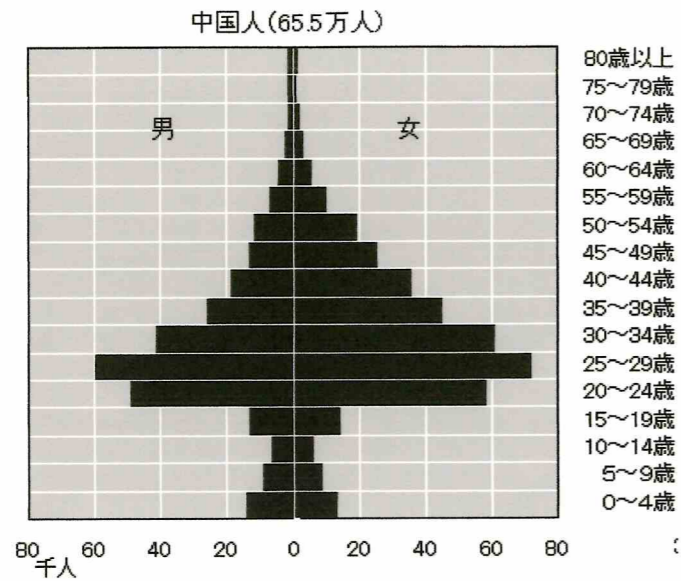


表 3-1 は、調査対象者の職業または所属学部、研究科を示している。元留学生は 3 人であり、職業はそれぞれ大学教員、中国の日系企業の会社員、建設会社のデザイナーである。留学生は 19 人であり、そのうち法文学部と人文社会科学研究科に所属している対象者が最も多い。

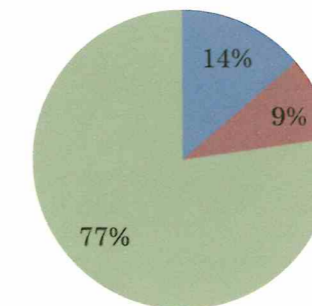
表 3-1 調査対象者の所属

元留学生	
大学教員	1 人
中国の日系企業の会社員	1 人
日本の建設会社のデザイナー	1 人
留学生	
学部	
法文学部	4 人
工学部	3 人
理学部	1 人
水産学部	1 人
農学部	1 人
医学部	1 人
大学院	
水産学研究科博士前期課程	2 人
人文社会科学研究科博士前期課程	4 人
農学研究科博士前期課程	2 人

図 3-4 は調査時点までの調査対象者の日本における滞在期間を示している。一年以上が最も多い。滞在期間が最も長いのは 15 年である。滞在期間が最も短いのは 4 ヶ月である。

図 3-4 調査対象者の日本の滞在期間

■ 半年以下 ■ 半年から一年以上 ■ それ以上



第4節 手帳の使用状況の概況

調査対象者のうち、手帳を使っている（使っていた）人が20人であり、手帳を使ったことのない人が2人である。たとえば、調査対象者のTさん（男性）に関しては、2014年9月の第一回目の調査時点では毎年手帳を購入していたが、使ってはいなかった。第二回目の2015年5月の調査時点では、手帳を使い始めていた。こうしたTさんの事例は「手帳を使っている（使っていた）」に分類している。図3-5は、調査対象者の手帳の使用状況を示している。

図3-5 調査対象者の手帳の使用状況

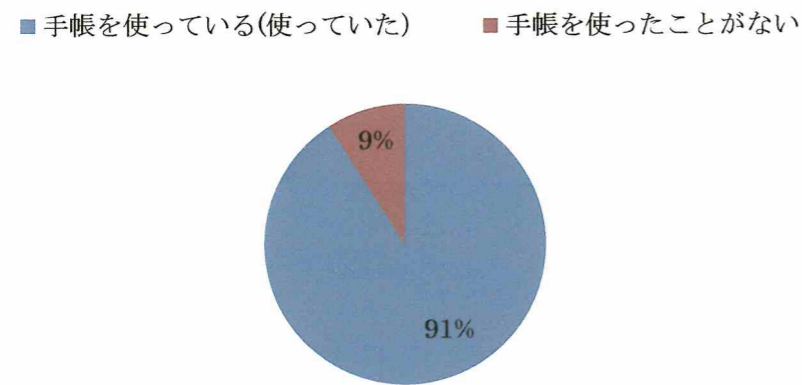
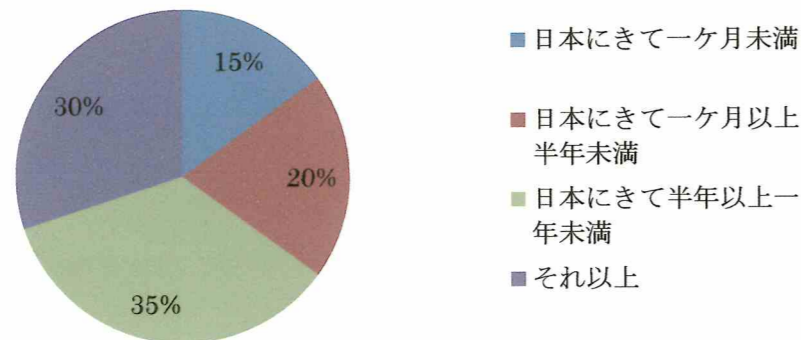


図3-6は、調査対象者の手帳の使用開始時期を示している。ここでは、使用開始時期を「日本にきて一ヶ月未満」「日本にきて一ヶ月以上半年未満」「日本にきて半年以上一年未満」「それ以上」の4種類に大別している。具体的な結果は図3-6が示しているように、調査対象者の大半は日本にきて一年以内に手帳を使い始めている。

図3-6 手帳を使用している（いた）調査対象者の手帳の使用開始時期



第5節 「手帳」：中国人による活用例

手帳は中国人留学生の日本社会への適応（特に時間感覚の変化）において手助けになるような役割を果たしていると考えられる。そのため、第一回目の調査は調査対象者の手帳の具体的な使い方に重点をおいて行った。インタビューの結果からまず分かったことは、調査対象者にとって、まず第一に手帳は時間管理の道具であるという当然の結果である。しかし、それ以外にも、時間管理の道具以外の意味を持っていることが分かった。たとえば、女性の調査対象者にとっては、アクセサリー（スタンプ、シールを貼る等）的な意味を持っていた。また男女を問わず、手帳は未来に向けてのまなざしという機能を持っているケースもあった。以下本節では、調査対象者のうち、「手帳を使っている（使っていた）」と答えた人について、各々の事例をつぶさに検討していく。

【事例1】Aさん（男性 30代 鹿児島大学教員）¹⁹

Aさんは現在大学の教員である。日本に来たのは1999年である。高校を卒業した後、まず日本語学校に通い、その後大学、大学院を経て、博士後期課程終了後、鹿児島大学の教員として勤務している。高校卒業後に日本に来たが、Aさんが日程を筆記し始めたのは博士課程の後半期からである。Aさんは次のように語っている。「学生だから、授業とか彼女とのデートとかバイトぐらいの用事は全部頭で覚えてたの。一度もミスしなかった」。手帳を使い始めたのは博士後期課程の時に指導教員に指摘されたのがきっかけだったという。記入の道具として使われていたのは携帯電話のカレンダーとパソコンメールのカレンダーだった。Aさんが直接語ったわけではないが、インタビューの内容から、当時日程を筆記し始めたのは日程管理というよりも、指導教員に真面目な印象を与えるためということが明らかに推測できる。正式に手帳を使い始めたのは、仕事を始めてからだという。「用事が多すぎて、携帯のカレンダーは修正しにくく、記入しきれなくなって、手帳を使い始めた」という。

またAさんのインタビューから、来日した中国人は遅かれ早かれ、日本に長期間滞在するにつれて、いずれは手帳を使うようになると実感した。その理由は、中国と日本の時間感覚の違いにある。「日本は長期的計画を立てる習慣があって、会議も多いし。中国は会議をするとき、私の義理の父の場合、会議の前にお知らせするのね」と述べた。

Aさんは手帳を使い、主に日程の管理をしている。手帳の後ろの空白の紙にメモもする。また手帳に名刺を挟んだり、手帳の伝言用の紙を活用したりもしている。Aさんにとっての手帳は道具的な機能の性質が強い。ここでAさんの手帳を見せてもらったが、日程の管理に関しては、単なる日程の記入だけでなく、Aさんは日程ごとにマークを使用している。たとえば、「○」は重要という意味で、「×××」は機密という意味である。

さらに、手帳を使った後の処理について聞いてみた。Aさんは多くの場合前年に使っていた手帳を捨てる。特に試験関係のものは粉碎してから捨てるように気をつけている。保管

¹⁹ 調査時期及び場所：2014年7月9日（Aさんの研究室）。

する場合もあるが、それはまた使う可能性のある有用な情報が記されている場合のみである。

【事例2】Bさん（女性 20代前半 中国で日系企業の社員）²⁰

Bさんは現在中国である日系企業に勤務している。大学三年生の時に、交換留学生として日本で一年間を過ごしたことがある。彼女が手帳を使い始めたのは日本に来て約三ヶ月後からだと言う。使い始めたきっかけを聞いてみたら、Bさんは次のように語った。「周りの日本人は皆使ってるし、特に女の子はね、デコレーションしてね、めっちゃかわいいの」。しかし、一年間の留学を終え、中国に帰ってからは手帳を使わなくなった。「周りに使う人があまりいないし、あと一番の理由は中国で手帳を売ってるところがないね、かわいい手帳はなおさらだよ」と彼女は言う。

Bさんは手帳に日程を書いているが、日程を書くという行為もあくまで手帳をかわいくするためである。「でも日程を覚えるために書くというよりは、手帳にいっぱい書き込んでかわいくしたいっていう気持ちかな」とBさんは語る。Bさんにとって、手帳は日程管理の道具というよりは、手帳をつけること自体に楽しみを感じている対象と考えられる。

Bさんは日本に一年間にしかいなかったため、使用した手帳も一冊だけだった。しかし、帰国する際に使用していた手帳も一緒に持ち帰ったという。「捨てるわけじゃないじゃん、だって、二度と交換留学できないから、大切に取っといてるよ」とBさんは述べた。

【事例3】Cさん（男性 20代前半 鹿児島大学法文学部三年生）²¹

Cさんは現在鹿児島大学の法文学部三年生である。日本に来たのは5年前だという。高校卒業後、まず東京の日本語学校に2年間通い、その後鹿児島大学法文学部に入学した。手帳を使い始めたのは日本に来て一年後のことである。きっかけは東京の日本語学校に通っていた時の中国人の元彼女からもらったプレゼントだった。

プレゼントとしてももらったのは普通の手帳ではなく、カップル手帳だった。「毎日恋愛の記録みたいな日記つけさせられてた」という。当時もらったカップル手帳には日記以外に、デートとアルバイトの日程も書いていた。その後彼女と別れた後も自ら手帳を購入している。現在、手帳には日程以外に、目標や夢なども書いているという。

Cさんはカップル手帳を捨てたという。その理由を探りたいと思い、「思い出づくりになるんじゃないか」と尋ねた。そうしたら、Cさんは「わかれてなかったら、思い出づくりになったかもしれないけど」と答えた。その回答から分かったことは、李さんにとっての手帳は思い出づくりの意味も持っていたことである。彼女と別れて以降、自分で購入している手帳は使い終わった後も保管しているという。『あの年のあの頃、私はあんなことをしていたな』ってたまに出して読むの。昔勉強すごくがんばっていたなって今の自分と比べ

²⁰ 調査時期及び場所：2014年9月20日（インターネット経由）。

²¹ 調査時期及び場所：2014年10月3日（鹿児島大学の学校の中央食堂）。

て、反省する」とCさんは語った。Cさんにとっての手帳は日程管理以外に、回顧録（読み物）的な機能も持っており、回顧録を読みかえすことが現在の行為の修正につながっている。

【事例4】Dさん（男性 20代前半 鹿児島大学大学院水産学研究科博士前期課程二年生）²²

Dさんは現在鹿児島大学水産学研究科博士前期課程の二年生である。二年前の大学院入学を機に、はじめて日本に来た。手帳を使い始めたのは日本にきて半年後だという。手帳を使い始めた理由は三つある。一つ目は「中国になかったし」という新鮮味であり、また「日本にきてから周りの日本人が使ってるのを見て、便利だなと思って」という周りの影響と手帳の便利さにあった。

Dさんは手帳を日程管理だけに使っている。「もともとはスケジュール管理をするために買ったから」と彼は言う。

一年間使い終わったら後は廃棄するという。

【事例5】Eさん（男性 20代前半 鹿児島大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程二年生）²³

Eさんは鹿児島大学大学院人文社会科学研究所博士前期課程の二年生である。大学までは中国にいた。大学院に入る前に、まず鹿児島大学の法文学部で研究生として半年間勉強し、その後大学院に進学した。手帳を使い始めたのは日本に来て半年後だという。使い始めた理由について、「いろいろな機能があって、便利だなと思って」と語った。

Eさんは、使い始めた理由として多様な機能があるからだと述べているが、実際の手帳の使い方は日程管理だけだという。

使い終わった後は廃棄したという。

【事例6】Fさん（女性 20代前半 鹿児島大学工学部四年生）²⁴

Fさんは鹿児島大学工学部の四年生である。高校卒業後、留学試験を受けて、鹿児島大学工学部に入学した。「日本に来て、周りの人も皆使ってるし、年末年始に本屋さん、雑貨屋さんとかにずらりと並べられてるし、なんだか私も使わないとって思って」という理由で日本に来て半年頃に初めて手帳を購入した。「どうせ買うなら、かわいいの買おうと思ってさ」と語る彼女ははじめて購入した手帳は、機能というよりも、「かわいいかどうか」で判断して購入した。そこで彼女に現在使っている手帳も見せてもらった。手帳のカバーは布製で、赤帽子を被っている女の子のキャラクターの刺繍があるものであり、手帳の中の紙も一枚一枚それぞれ違う柄であった。「一種類のカバーは一冊しかないの。世界にこれと同

²² 調査時期及び場所：2015年1月25日（インターネット経由）。

²³ 調査時期及び場所：2015年1月25日（鹿児島大学の人文社会科学研究所の院生室）。

²⁴ 調査時期及び場所：2015年1月25日（鹿児島大学の学習プラザ）。

じのがまだあるかどうか分からないけど、でも一応、他の人とかぶるのはあまりないね」と語り、まるで手帳は自分自身のユニークさを表しているようであった。こういうかわいい限定的な手帳は普通の手帳より高いが、カバーを外した来年の手帳につけられるという。

Fさんは日程をつけるが、最初は「かわいいスタンプとか使うために、日程を書いた」という。やはり他の中国人と同じように、日程は頭で覚えるだけで十分だと語った。しかし、四年生になり、卒業論文などの作業が増えてきて、手帳の日程管理の機能も活用し始めた。他には、趣味の情報の収集にも手帳を使っている。たとえば、雑誌の好きな洋服、雑貨とかを切り取って、手帳に貼る。

Fさんは手帳を使った後も保管する。「一年使い終わったら、とっておいて、本棚にコレクションするの」と語ったのは、手帳のカバーについて質問したときであった。彼女の保管する理由は手帳の収集を趣味の一つだと考えている可能性が高い。

【事例7】Gさん(女性 20代前半 鹿児島大学大学院農学研究科博士前期課程一年生)²⁵

Gさんは鹿児島大学大学院農学研究科博士前期の一年生である。2009年に鹿児島国際大学に入学し、その後、鹿児島大学で一年間の研究生の期間を経て、2014年に農学研究科に入学した。手帳を使い始めたのは日本に来て半年後だと言う。手帳を使い始めた理由は、アルバイトの時間を覚え間違えたからだった。

Gさんは中国にいたときはアルバイトをしていなかったが、日本に来て学費と生活費を賄うため二つのアルバイトをしている。「日本人の学生ってアルバイトするの当たり前だね、二つのアルバイトする人も結構いるよ」という。それもまた中国と日本の違いの一つである。中国の学生にはアルバイトをする人はあまりいない。日本の学生はアルバイト以外にも、学校、部活などの用事が多いため、手帳を使わざるをえないという状況を生んでいると考えられる。

Gさんは手帳を日程管理だけに使っていたという。

使った後は手帳を捨てるという。

【事例8】Hさん(女性 20代前半 鹿児島大学水産学部交換留学生(中国では大学三年生))²⁶

Hさんは2014年の10月に交換留学生として来日し、鹿児島大学水産学部で勉強している。Hさんは日本にきて半年間ごろから手帳を使い始め、使い始めた理由について、「この前、年末のときに、本屋さんに行って、いっぱい並べられていて、ちょうどかわいいのあったから、買ったの」と述べた。

Hさんはかわいい手帳を買うが、デコレーションはしていない。手帳を日程管理だけに使

²⁵ 調査時期及び場所：2015年1月26日(バングラデシュ料理専門店「Ruposhi Bangla(ルポシバングラ)」)。

²⁶ 調査時期及び場所：2015年1月26日(鹿児島大学国際交流会館2号館)。

っている。手帳を使う前はどのような風に日程管理をしていたのかについて聞いてみた。「携帯か、寮のカレンダーか、頭かな。今は手帳に書いているけど、実は書かなくても覚えてると思うよ」と答えた。手帳に書く理由について、Hさんはこう語った。「ただ書いて整理してるだけで、なんか安心感があるね」。またHさんは手帳に書かない時もあると述べた。その理由は今使っている手帳は大きくて重く、常に持ち歩きしていないからだという。そこで「百均」の安くて軽い手帳を勧めてみたら、「やっぱり質とか、かわいいのを買いたいね」と答えた。Hさんにとって、手帳は日程管理の道具であり、考えを整理する道具でもある。またかわいい手帳を使いたいというところから、一種のアクセサリ的な意味も読み取れる。

Hさんが手帳を使っている期間はまだ短いため、今使っている手帳は一冊目である。そこで、もし現在使用している手帳を使い終わったらどのような風に処理する予定なのか聞いた。Hさんは「まだ使い終わってないけど、捨てないと思う、留学の思い出になるからね」と答えた。Hさんは手帳に日程しか書いていないが、それでもその手帳はHさんにとって留学の思い出になる。理由として考えられるのは、その日程自体が思い出を引き出す日記的な機能、すなわち回顧録となりうるからである。またかわいい手帳へのこだわりがあるということで、書いている日程以外に、手帳の存在自体がHさんの思い出の分身であることも考えられる。

【事例9】Iさん(女性 20代前半 鹿児島大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程二年生)²⁷

Iさんは2013年9月に大学院に入学した。日本に来て2ヶ月後から手帳を使い始めたという。大切な約束を忘れたのがきっかけであった。「日本は仕事上でもプライベートでも結構日程、予定とか立てるのが早くて、なんでもかんでも予約制だし、最初は頭で覚えようとしたんですけど、やっぱり無理でしたね」とIさんは言う。中国は短期計画(主に週間計画)に対し、日本は長期計画である。そのため、何をするのにも、一ヶ月先かそれ以上のことを早くから予約しなければならないことが多い。それも多くの中国人にとって、不慣れなことのひとつである。

Iさんは手帳を使い、主に日程管理をしている。日程を管理する際に、予定の大切さを色ペンによって区別している。また日程とは関係ないが、最近は簡単な絵も描いているという。それは女性によく見られる、手帳をかわいくするアクセサリ的行為の一つだと考えられる。

Iさんは手帳を使った後は、捨てるという。

²⁷ 調査時期及び場所：2015年1月27日(鹿児島大学人文社会科学研究科の院生室)。

【事例 10】J さん (男性 20 代前半 鹿児島大学大学院水産学研究科博士前期課程二年生)

28

J さんは 2012 年に来日し、調査時点では博士前期課程の二年生であった。手帳を使い始めたのは日本に来て半年後だという。使用開始のきっかけについて聞いてみたら、「特にきっかけというのはなくて、ただ研究室の先輩みんな使ってますから、私も使おうかなと思って」といった。ある文化を分有している人々が共通して行っている行為を模倣することは、行為者がその文化に適応しようとしている過程であると解釈できる。つまり、J さんは日本社会に適応しようとするために、手帳を使い始めたと考えられる。

手帳の使い方は日程管理以外にも、勉強上のメモを書くときにも使っているという。「授業のメモも書き、実験の結果とか、あと研究に関する思いつきとかですね。手帳一冊持つとけば、忘れてないうちにメモして、帰った後、再度まとまった内容で整理します」と J さんは語った。

J さんは手帳を使った後も保存している。「保存しますね。人生の記録になるんじゃないですか」と回顧録的な回答をした。

【事例 11】K さん (女性 20 代前半 鹿児島大学法文学部四年生) 29

K さんは高校卒業後、留学試験を受けて鹿児島大学に入学し、現在法文学部の四年生である。日本に来て一年半ぐらいから手帳を使い始めたという。理由はアルバイトのシフトを書くためだという。

手帳の使い方は日程管理以外にも、スタンプ、シールを貼ったり、絵を書いたり、アクセサリもしているという。

手帳を使い終わった後は保管する。その理由について、彼女はこう述べている。「自分が手間をかけて選んで、絵とかも書いてるし、開くたびに、ハッピーになります」とまるで手帳を自分の作品のように捉えている。

【事例 12】L さん (女性 20 代前半 鹿児島大学理学部二年生) 30

L さんは四年前に来日し、二年間の日本語学校を経て、鹿児島大学に入学した。現在理学部の二年生である。手帳を使い始めたのは日本に来てすぐだという。日本語学校で授業を教えている中国人の先生に買わされたという。しかし、買わされる前から普通のメモ帳に期日を書いて、スケジュールを書いていたという。

そこで、自分で作ったスケジュール表と実際買った手帳とどう違うのかについて尋ねると、彼女はこう答えた。「スケジュール管理に関しては変わらないですね。ただ今の手帳って、もうスケジュール管理の手帳を超えていますよ。たとえば、私今使ってる手帳は、最初のページに、なりたいたい自分とか、目標とか書けるスペースとお勧めみたいのがあるんです

28 調査時期及び場所：2015 年 1 月 30 日 (インターネット経由)。

29 調査時期及び場所：2015 年 2 月 3 日 (インターネット経由)。

30 調査時期及び場所：2015 年 2 月 11 日 (鹿児島大学教育学部の食堂)。

よ。意外と役に立ちます。手帳って、常に開くじゃないですか。目標書くことで、見るたびに、なんか後押しされるというか、励まされるというか、もっと頑張れる気がする」。

手帳に目標を書くという機能をヒントに、今はメモ帳にも各授業ごとに目標か座右の銘を書いているそうである。

前述のように、L さんの手帳の使い方は日程管理以外に、目標を書くということで手帳を活用している。また、さらに聞いてみたところ、色ペンを使い、重要なことを一段目立つようにもしているという。

手帳を使った後は保管しているという。「自分の頑張った証拠です」と保管する理由について述べた。

【事例 13】M さん (男性 20 代前半 鹿児島大学工学部三年生) 31

M さんは 2010 年に留学試験を受けて K 大学の工学部に入学し、一年間留年し、現在三年生である。手帳を使い始めたのは「今年」(日本にきて四年後) だという。使用開始の理由について、「就活とバイトと学校で、用事が多すぎて、生協で就活手帳を買いました」と語った。買う前は「頭で覚えてたんですよ」と述べた。

彼は手帳を使い、日程管理をしている。他の使い方もしているかどうかについて、「重要なことを紙に書いて、ピンでとめてます」と、ある意味メモ的な使い方もしている。また就職手帳の後ろの就活ガイドブックも活用している。

使った後は捨てる可能性が高いという。

【事例 14】N さん (女性 20 代前半 鹿児島大学法文学部研究生) 32

N さんは 2013 年に初めて来日し、交換留学生として一年を終えた後に帰国し、中国の大学を卒業した後、2014 年に再度日本で勉強を深めたいという考えで来日し、鹿児島大学の法文学部で研究生をしている。人文社会科学研究科の入学試験を受ける予定である。手帳を使い始めたのは交換留学生の時であり、日本に来て三、四ヶ月ごろだという。使い始めた理由についてきいてみた。「いろいろの理由があつてですね。周りが皆使ってるのと日程が多いのと、中国にないから使ってみようという気持ちの結果ですね」と答えた。

彼女の手帳の使い方は、日程管理以外に、「毎週、週の初めに手帳に一週間の計画を書きます」と述べた。後になって計画を達成できたかどうかの達成の確認という行為と考えられる。自分を励ます言葉も手帳に書きうつしたりしているという。また日程も重要度によって色ペンを使い分けして書いている。スタンプを貼ったり、絵を書いたり、アクセサリもしているそうである。

手帳を使った後は保管しているとのことであった。

31 調査時期及び場所：2015 年 2 月 11 日 (鹿児島大学教育学部の食堂)。

32 調査時期及び場所：2015 年 2 月 11 日 (鹿児島大学教育学部の食堂)。